

平成 26 年度
発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援・教職員の専門性向上事業
(発達障害理解推進拠点事業)
成果報告書 (概要版)

実施機関名 (京都市)

1. テーマ

京都市では、A：『ユニバーサルデザイン化の推進』をテーマにした教員の資質向上等と、B：『総合育成支援教育 マスターコース』を開講し、教員の資質向上等を図り、発達障害理解推進拠点事業を進めた。

2. 問題意識・提案背景

文部科学省が実施した「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的視点を必要とする児童生徒に関する調査」によると、公立小・中学校の通常学級において、6.5%の児童生徒が、学習面又は行動面において著しい困難を示すとされている。これらの児童生徒以外にも、何らかの困難を示していると教員が捉えている児童生徒がいることが示唆されている。

京都市においても、LD等支援の必要な児童生徒が年々増加している状況の下、A：『LD等支援の必要な子どもを含むすべての子どもの学力向上』と、B：『特別支援教育の分野で地域の中核となる教員の養成』、この2つを「発達障害理解推進拠点事業」で重点的に取り組む。

3. 拠点校について

○ 拠点校一覧

設置者	学校名 (ふりがなを付すこと)
京都市	A：京都市立檜原小学校 (きょうとしりつかたぎはらしょうがっこう)
京都市	A：京都市立松陽小学校 (きょうとしりつしょうようしょうがっこう)
京都市	A：京都市立醍醐西小学校 (きょうとしりつだいにししょうがっこう)
京都市	B：京都市立山ノ内小学校 (きょうとしりつやまのうちしょうがっこう)

○ 理解推進地域内の学校一覧

設置者	学校名（ふりがなを付すこと）
京都市	A：京都市立大枝小学校 （きょうとしりつおおえしょうがっこう）
京都市	A：京都市立嵐山東小学校 （きょうとしりつあらしやまひがししょうがっこう）
京都市	A：京都市立醍醐小学校 （きょうとしりつだいごしょうがっこう）
京都市	B：京都市立安井小学校 （きょうとしりつやすいしょうがっこう）

4. 拠点校における取組概要

京都市では、A：『ユニバーサルデザイン化の推進』をテーマにした教員の資質向上等と、B：『総合育成支援教育 マスターコース』を開講し、教員の資質向上を図り、発達障害理解推進拠点事業を進めた。

A：『ユニバーサルデザイン化の推進』に係る取組では、ユニバーサルデザインの授業づくりについて校内研修や、インクルーシブ教育システムと授業のユニバーサルデザインをテーマにした講演等の基礎的な校内研修を実施した。また、通級指導担当教員や総育主任などを対象とした専門的な校内研修では、発達障害幼児の通園施設の元園長による講演「児童理解の深め方～発達障害の子どもに焦点をあてて～」をテーマとして聞き、発達障害における適切な支援のための見立てについて等の専門的な校内研修を実施し、教員の資質向上を図った。また、学校教育活動全体を通じた児童生徒への障害者理解を図るための取組としては、LD等通級指導教室等の理解をはかるパワーポイントを活用して、発達段階に応じて各通常学級で学習したり、特別支援学級（育成学級）担任が作成した児童の紹介ビデオを、通常学級で視聴し、発達段階に応じた話し合いを行ったりするなど、児童生徒への障害者理解を図った。

B：『総合育成支援教育 マスターコース』に係る取組では、特別支援教育の中核を担えるような教員を養成するため「アセスメント」、「個別の指導計画の作成と活用」、「聞く・話す」の指導」及び「アセスメントインタビュー」のテーマで計24時間の研修を行った。拠点校では、専門的な研修としては、マスターコースで受講した「個別の指導計画」をテーマに、特別支援教育コーディネーター（総合育成支援教育主任）や、LD等通級指導教員、管理職などを対象に専門的な校内研修を行い、教員の資質向上に努めた。

5. 主な成果

京都市では、A：『ユニバーサルデザイン化の推進』をテーマにした教員の資質向上等と、B：『総合育成支援教育 マスターコース』を開講し、教員の資質向上等を図り、発達障害理解推進拠点事業を進めた。

A：『ユニバーサルデザイン化の推進』に係る主な成果は、拠点校3校の教員が学校一丸となってユニバーサルデザイン化の方向を向くことができ、子ども自身がトイレのスリッパの位置を決めて揃えるなど、子どもの行動にも、学校環境面ではあるが、ユニバーサルデザインの考え方が実際に反映されてきた。

基礎的な校内研修については、拠点校3校のうち2校については、100%の教員受講率、残り1校については、84%の教員受講率であり、ユニバーサルデザイン化をテーマとした研修への教員の受講意識の高さを見ることができた。

B：『総合育成支援教育 マスターコース』に係る主な成果は、発達障害に関する支援の中核となる高度な専門性を有する人材を養成するために、管理職の選考のもと、60人（60校）の教員が計24時間の専門的な研修を連続して受講し、研修後には小テストを実施してきた。

基礎的な校内研修については、88%の教員受講率であった。児童への障害者理解を図るための取組に関する児童の感想では、「特別支援学級（育成学級）のことがわかりお友達の名前も憶えられてよかった。」「ひとは一人一人個性があって得意なことも違う。」などが寄せられ、一定の理解が図れた。

6. 今後の課題と対応

A：『ユニバーサルデザイン化の推進』に係る今後の課題：平成26年度については、拠点校3校が理解推進地域内の教員に、ユニバーサルデザイン取組等を広めていたが、理解推進地域という限定的な地域になってしまった。その課題に対応するため、平成27年度については、拠点校3校が理解推進地域以外の学校も含めた研究発表会を行い、広くユニバーサルデザイン化の取組を発信していく。

B：『総合育成支援教育 マスターコース』に係る今後の課題：マスターコースは2年間計51時間にも及ぶ講座であり、平成26年度については24時間の研修時間という部分的な研修であったことから、拠点校の教員が習得した特別支援教育に関する知識が部分的になってしまったため、他校等における研修等が十分なものとは言えなかった。平成27年度において、拠点校の教員が残りの27時間の特別支援教育に関する専門的な研修を受講し、より専門性を高めて、他校等での研修に十分な力を発揮することができると考える。

7. 問い合わせ先

組織名：

- | | |
|-------------|----------------------------|
| (1) 担当部署 | 総合育成支援課 |
| (2) 所在地 | 京都市下京区河原町通松原上ル二丁目富永町344番地 |
| (3) 電話番号 | 075-352-2285 |
| (4) FAX 番号 | 075-352-2305 |
| (5) メールアドレス | y-ikusei@edu.city.kyoto.jp |